

1 単元の目標

秋の自然を見付けたり、遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使うものを工夫して作ったりすることで、自然の様子や季節の変化、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くとともに、季節の変化を取り入れて自分の生活を楽しくしたり、友達と関わりながら楽しい遊びを創り出したりしようとするができるようにする。

2 単元観

本単元は、学習指導要領生活の内容(5)(6)を受けて、秋の自然と関わり、「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」などの多様な学習活動を行うことで、秋の特徴や季節の変化、秋の自然物を利用した遊びや遊びに使うものを工夫して作る面白さ、自然の不思議さに気付くことをねらいとしている。また、秋の自然と関わって見出した気付きを伝え合ったり、遊びの中で試行錯誤した活動を振り返ったりすることで、気付きを自覚したり、関連付けたりしながら気付きの質を高めるとともに、秋の良さや友達と関わって遊びを創り出す楽しさ、相手に合わせておもちゃや遊びのルールを工夫する大切さに気付き、今後の生活や学習に活用しようとする態度を育てることのできる単元である。

3 児童観

本学級の児童は、生活科の学習で、アサガオの観察や虫探しを行い、植物や自然の生き物と関わってきた。アサガオの花が咲いた際には、花を使って色水遊びやたたき染めを行い、自然の色合いを楽しむ様子が見られた。虫や生き物に関心がある児童が多く、休み時間にも校庭で虫を探したり、児童が持ってきたアゲハチョウの幼虫やさなぎの様子を集まって観察したりする姿が見られる一方、自然の花や実、葉っぱ等に、自分たちから関心をもって話題にしたり、自然物を拾ってきたりすることはほとんど無い。また、自分で決めた活動には意欲的に取り組む児童が多く、夏にシャボン玉遊びを行った際には、自分の作りたいシャボン玉を決めて材料や道具を工夫し、試行錯誤する姿が見られた。これらを踏まえて行ったアンケートの結果は以下の通りである。

【学習アンケート内容】	肯定的評価
これまでに秋の自然物を探したり、それらを使って遊んだりしたことがある。	61%
これまでに秋の自然物を使っておもちゃを作ったことがある。	13%
自分でやりたいことや作りたいものを決めて活動するのが好きである。	90%

これらの結果から、秋の自然物を探したり自然の中で遊んだりしたことのある児童は多いとは言えず、秋の自然物を使っておもちゃを作った経験はほとんどないことが分かった。経験のない児童に話を聞くと、家の周りにどんぐりや松ぼっくりなどの自然物が落ちておらず、目にする機会が少ないとのことだった。

4 指導観・指導のポイント

繰り返し自然と関わり、気付きを共有しながら学習を進めることで、季節の変化や秋の良さを感じることができるようになるとともに、おもちゃ作りに必要な視点や技術のポイントを押さえながら、試行錯誤する学習に意欲的に取り組むことができるようにする必要がある。また、「自分で決めて活動するのが好き」と回答した児童の割合が高いことから、児童の思いを単元計画に反映できるようにするとともに、自分で作りたいものや活動の場、表現方法等を選べるようにし、より学習効果を高めていけるよう工夫していく。

- ・校庭や学校の周りに何度も出かけて秋の自然物を探し、見付けた秋をいつでもワークシートや画像に記録できるようにするとともに、児童の気付きを交流し合う機会を多く設定することで、秋の自然への理解を深めることができるようにする。
- ・単元を通して、児童と共に単元の題名や学習計画を考えたり、児童の想起した場所に実際に秋見付けに出かけたりするなど、児童のやりたいことを基に柔軟に学習を展開するとともに、自分が頑張りたいことを「じぶんめあて」として設定し活動に取り組むことで、当事者意識をもち、目標に向かって意欲をもって活動することができるようにする。また、授業の中で、自己決定の場面と振り返りの時間を意識して取り入れることで、トライ&エラーを繰り返しながら主体的に学習へ向かう態度を育成できるようにする。

- ・国語科「なにに見えるかな」では、見つけた秋の自然物を組み合わせて画用紙に貼り、グループで話をしたり、生活科「きれいにさいてね」の単元では、秋の自然物を使って、アサガオのつるで作ったリースを飾り付けたりするなど、他教科や別単元との関連を図りながら、秋の良さや色合いを感じられるようにする。
- ・単元の最後に「わくわく秋ランド」を開き、幼稚園の年長児を招待するという活動を設定することで、友達と協働しながら、招待する相手の気持ちを想像し、より楽しんでもらえる遊びを創り出そうと試行錯誤することができるようにする。
- ・第9～12時では、おもちゃ作りに必要な視点や技を児童と共有するとともに、作りたいおもちゃを決め、友達と関わりながら様々な材料から選んで作ることでできる環境づくりを行うことで、比べたり、試したり、予想したりしながらおもちゃ作りを楽しむことができるようにする。
- ・第10時に自分の作ったおもちゃに関する気付きを付箋に書いて貼ることで、気付きを言語化し、うまくできたことを視覚的に振り返ることができるようにする。

5 本単元で育てたい資質・能力

- ① 身近な自然の共通点や相違点、季節の移り変わりに気付いたり、季節の変化と自分たちの生活との関わりに気付いたりする。
- ② 自然物を使った遊びの面白さや自然の不思議さに気付くことができる。
- ③ 身近な自然に興味をもち、それらを観察したり関わったりすることを通して、それらの違いや特徴を見付けるとともに、試行錯誤を繰り返しながら遊びや遊びに使う物を工夫して作り、考えを巡らせることができる。
- ④ 自然との触れ合いの中で気付いたことを取り入れ、自分の生活を楽しくしようとするとともに、自分と友達などとのつながりを大切にしながら、遊びを創り出し、毎日の生活を豊かにしようとする態度を養う。

6 単元の評価規準

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準		秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付いている。	秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫して作ったりしている。	秋の自然を見付けたり、遊んだりする活動を通して、季節の変化を取り入れながら自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりしている。
小単元における評価規準	1	① 校庭や学校の周りの秋の自然の様子や特徴、夏から秋への移り変わりに気付いている。	① 諸感覚を生かして、校庭や公園の秋の自然に関わっている。 ② 四季の変化や季節の特徴を確かめながら、秋の自然についての気付きを表現している。	① 秋の自然を楽しみたいという思いや願いをもって、校庭や学校の周りの秋の自然と繰り返し触れ合おうとしている。
	2	② 校庭や学校の周りの秋の自然は、いろいろな遊びに利用できることや、遊びを工夫したり遊びを創り出したことなどの面白さに気付いている。	③ 楽しみたい遊びを思い描きながら遊びに使うものを選んでいる。 ④ 比べたり、たとえたり、試したり、見通したりしながら、遊びを楽しんでいる。	② みんなで楽しく遊びたいという願いをもち、粘り強く遊びを創り出そうとしている。 ③ 友達のよさを取り入れたり自分との違いを生かしたりして遊びを楽しくしようとしている。

	3	③ みんなで楽しく遊ぶ際、道具や用具の準備や片付け、掃除、整理整頓をしている。	④ 遊びには約束やルールが大切なことや、それを守って遊ぶと楽しいことに気付いている。	⑤ 遊びの約束やルールなどを工夫しながら、遊んでいる。	④ みんなで遊ぶと生活が楽しくなることを実感し、毎日の生活を豊かにしようとしている。
--	---	-----------------------------------------	--------------------------------------------	-----------------------------	--------------------------------------------

7 指導計画（全22時間） ●指導に生かす評価 ○記録に残す評価

	時	主な学習活動	取り入れる自己決定	振り返りの視点	評価規準
1	1	「きせつメーター」を使って、秋になったかどうかとその理由を考える。			●知①
	2	校庭を歩いて秋の自然物を探し、自分にとっての「秋一番」を決めてワークシートに書く。	・「秋一番」の決定	・季節の変化についての気付き	○知① ●思① ●態①
	3	学校の周りや校庭を歩き、秋の自然物を見付けたり集めたりする。		・秋の自然物への気付き	○思①② ●態①
	4	前時に見付けた秋の自然物を「秋のお宝」ワークシートに書く。		・秋の深まりへの気付き	
	5	校庭にもう一度出かけ、「秋のお宝」ワークシートを書く。			
	6	見付けた秋の自然物の中からみんなに紹介したい「秋のお宝」を決める。	・「秋のお宝」の決定		●知① ●思②
	7	「秋のお宝」をみんなに伝えるための表現方法を考え、伝える準備をする。	・表現方法の決定	・表現の工夫	●知① ●思② ○態①
	8	「秋のお宝」をみんなで伝え合い、気付きを交流する。		・新しい気付き ・友達の良さ	○思② ●態①
2	9	見付けた秋の自然物を使ってできそうな遊びを考え、どんぐりゴマを作る。	・材料や方法の決定	・どんぐりゴマの気付き	●思① ●態①
	10	校庭や学校の周りを歩き、おもちゃ作りに必要な秋の自然物を集める。		・次に作りたいもの	●思③
	11	自分の作りたいおもちゃを選び、製作する。(本時)	・作る物の決定 ・材料や方法の決定	・おもちゃ作りへの気付き ・次にやりたいこと	●知② ○思③④ ●態②
	12	前時の活動を振り返り、自分の作りたいおもちゃを選んで製作する。	・作る物の決定	・新しい気付き	○知②
	13		・方法の決定 ・協働の場の決定	・自分の成長	●思③④ ○態③
3	14	「わくわく秋ランド」の計画を立てる。			●態③
	15	だれがどんな遊びを担当するか決め、準備をする。	・遊びの決定	・協働	○知③④
	16		・ルールの決定		○思⑤
	17				●態②
	18	1年生の他クラスに実際に遊んでもらい、アドバイスをもらう。		・改善点	●知③④ ●態④
	19	アドバイスを受けて遊びを改良し、年長児を招待する準備をする。	・改善点の決定	・方法の良さ	○思⑤ ●態④
	20				
21	年長児を招待して「わくわく秋ランド」を開く。			●知③④ ○態④	
	22	秋の学習全体を振り返ってまとめをする。		・自分の生活 ・単元全体	○知①② ○態①③

8 本時の目標

自然物の特徴や秋の良さを生かして、比べたり試したりしながらおもちゃを作ることができる。

9 本時の学習過程

主な学習活動と想定される児童の反応(・)	指導上の留意点と手立て(・) ◎評価 (評価方法)
<p>1 前時の気付きを振り返る。 ○どうしたら長く回るどんぐりゴマができましたか。 ・丸くて大きいドングリを使う。・爪楊枝を短くする。 ・爪楊枝を真ん中に刺す。 ・爪楊枝をまっすぐ刺す。</p> <p>2 作りたいおもちゃを確認し、おもちゃ作りに必要な技を紹介する。 ○今日はどんなおもちゃを作りたいですか。 ・松ぼっくりのけん玉を作りたい。 ・やじろべえを作ってみたい。 ・いろいろな種類のマラカスを作りたい。 ・どんぐり迷路を作りたい。</p>	<p>・大きさ・形・長さ・場所・向き等のキーワードを黒板に掲示し、本時のおもちゃ作りに生かすことができるようにする。</p> <p>・刺す・結ぶ・貼り合わせる・テープでわかを作る等の技をイラストとともに紹介し、確認しながらおもちゃ作りに取り組むことができるようにする。</p>
<p>あきのものをつかって、くらべたりためしたりしながらおもちゃをつくろう。</p>	
<p>3 おもちゃ作りに取り組む。 ・松ぼっくりのけん玉はどうやったら作れるんだろう。作り方を見ると紐を松ぼっくりに結んでいるな。 ・大きい松ぼっくりだとカップに入らないから小さい松ぼっくりを使おう。 ・試してみたけどどうまくカップに入らないな。紐を長くしてみよう。 ・やじろべえを作りたいけど、穴を開けるのが難しいな。 ◇◇さんちょっと手伝ってくれる。 ・◇◇さんのやじろべえは全然落ちないね。なんでだろう。どうやって作ったの。 ・マラカスを作りたいな。ドングリの大きさや数で音が違うのかも。いろいろ試してみよう。 ・◇◇さんがカップの周りにもみじの絵を描いているの、すてきだな。私は葉っぱを付けて飾ってみようかな。 ・どんぐりで迷路を作ろう。どんなコースにしたらよく転がるのかな。 ・前作ったどんぐりゴマが面白かったから、もう一回作りたいな。◇◇さん、どっちが長く回るか競争しようよ。</p> <p>・松ぼっくりのけん玉が一つ完成したよ。今度はもう少し小さいカップを2つ繋げて作ってみよう。 ・やじろべえは難しくてできないな。他のコーナーに移動しよう。 ・マラカスができたから、次は2番目に作りたいやじろべえを作りに行くよ。 ・どんぐり迷路ができたよ。もっと楽しいコースにできないかな。コースの中にどんぐりを置くのも面白いかも。</p>	<p>主体的に学び続ける児童の育成に繋がる自己決定① 使う材料や作り方を決める 目的に合わせて材料や方法を選び、試行錯誤する力を付ける</p> <p>・コーナーごとに作り方のイラストを掲示し、作り方のイメージをもつことができるようにする。 ・いろいろな素材や大きさの材料を自由に使えるようにすることで、比べたり試したりしながら考えることができるようにする。 ・おもちゃごとの製作コーナーに分かれて、友達と関わりながら作ることで、新しい気付きを得ることができるようにする。 ◎楽しみたい遊びを思い描きながら遊びに使うのを選んでいく。 【思③】(行動・振り返り分析)</p> <p>◎比べたり、たとえたり、試したり、見通したりしながら、遊びを楽しんでいる。 【思④】(行動・振り返り分析)</p> <p>主体的に学び続ける児童の育成に繋がる自己決定② 取り組んだ後の活動を決める 次にやりたいことを選び、主体的に取り組む力を付ける</p> <p>・作るおもちゃの種類や個数は限定せず、難しかったり、作り終えたりした際は他のコーナーに移動できるようにすることで、最後まで意欲的に取り組むことができるようにする。</p>

4 気付きを付箋に書いて貼る。

- ・松ぼっくりのけん玉は、紐の長さを長くしたらよく入った。
- ・けん玉のカップを2つくっつけたら、面白くなった。
- ・やじろべえは、ななめに竹串を刺すとバランスが取りやすかった。
- ・マラカスのカップに葉っぱをつけたら、かわいくなった。
- ・どんぐりが通れる大きさのコースにしたらうまくできた。
- ・どんぐりゴマ対決をしたら丸くて大きいドンぐリが一番強かった。

5 本時の気付きを交流する。

- 次に作りたいおもちゃのコーナーに行って、友達のおもちゃで遊んだり、友達の気付きを読んだりしてコツを探しましょう。
- ・◇◇さんのけん玉は遊びやすいな。気付きを見たら紐を長くしたって書いている。紐の長さで遊びやすさが変わるんだな。
 - ・◇◇さんのやじろべえがすごいよ。全然落ちないしバランスがいいね。友達に教えてもらったならうまくできたって書いているから、私も◇◇さんに聞いてみたいな。
 - ・◇◇さんのマラカスはいい音がするよ。気付きには小さいドンぐりをたくさん入れたって書いている。入れるものの大きさや数で音が変わるんだね。
 - ・◇◇さんのどんぐり迷路が面白いな。途中でどんぐりがあったり点数があったりするよ。僕も真似したいな。

6 次時にしたいことを考える。

- 次はどんなことをしたいですか。
- ・松ぼっくりのけん玉を作りたい。理由は、カップを繋げて点数を付けたら面白そうだから。
 - ・やじろべえをもう一度作りたい。今日はできなくて諦めたけど友達に教えてもらったならできるかもしれないから。
 - ・どんぐりを入れたマラカスを作りたい。理由は、今日作りたかったけど時間がなくてできなかったから。
 - ・どんぐり迷路の続きをしたい。まだ完成していないし、◇◇さんみたいにコースを工夫したいから。

主体的に学び続ける児童の育成に繋がる 振り返りの視点① 作ったおもちゃに関する気付き

- ・コーナーごとにうまくいったことや工夫したことをいつでも付箋に書いて貼ることのできる場所を設けることで、作りながら得た気付きを残しておくことができるようにする。

◎みんなで楽しく遊びたいという願いをもち、粘り強く遊びを創り出そうとしている。

【態②】(行動分析)

- ・友達の作っているおもちゃの良いところを見つけ、その友達が付箋に書いた気付きを読むことで、友達の良さや見つけた気付きを次時の活動に生かすことができるようにする。

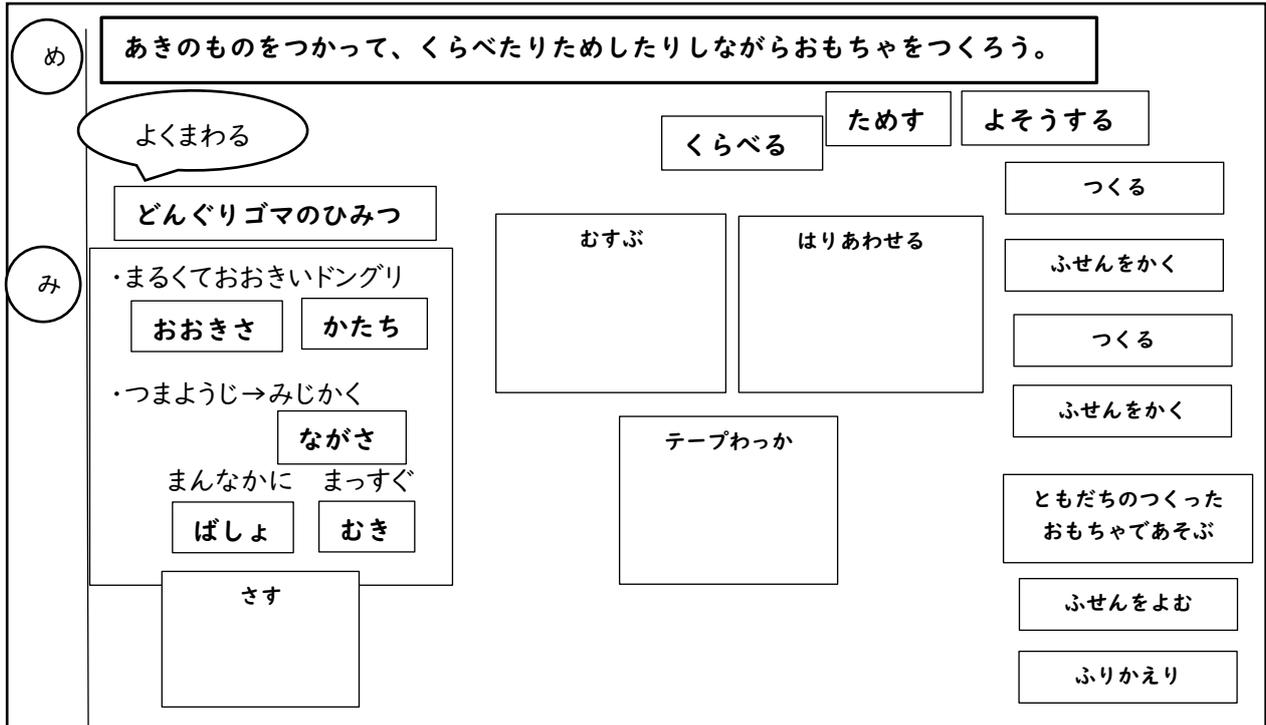
◎校庭や公園の秋の自然はいろいろな遊びに利用できることや、遊びを工夫したり遊びを創り出したりすることの面白さに気付いている。

【知②】(発言・振り返り分析)

主体的に学び続ける児童の育成に繋がる 振り返りの視点② 次にやりたいことを考える

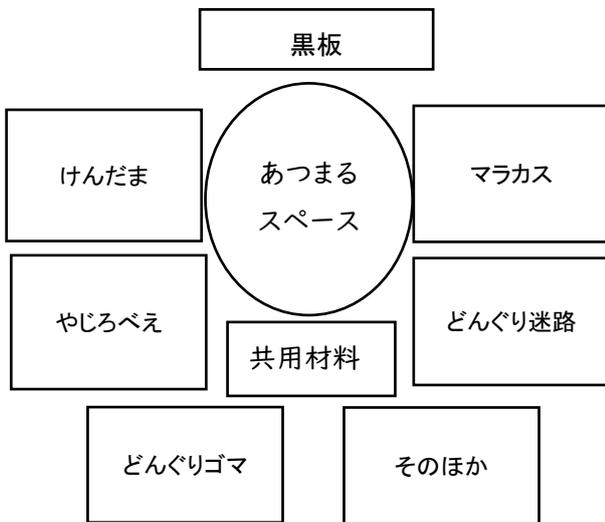
- ・次に作りたいおもちゃを理由とともに考えることで、本時の気付きを振り返り、次時への意欲を高めることができるようにする。

10 板書計画



11 「自己決定」および「振り返り」に係る詳細

【自己決定：場の設定】



【振り返り：付箋・振り返りシート】

ふりかえり	つくってみたいおもちゃ
	つくったおもちゃ
ふりかえり	できたわざを〇でかこもう! くらべる ・ ためす ・ よそうする
	つぎのじかんに やりたいこと
	りゆう